



教育ゆりほんじょう

第 21 号
令和 7 年 8 月 27 日
由利本荘市教育委員会
学 校 教 育 課
教 育 支 援 セ ン タ ー

教育委員の皆様から

1 回目の学校訪問を終えた教育委員の皆様へ、訪問の感想や学校教育に対するご提言など、日頃からお考えになっていることをお寄せいただきました。

ひとにしか育てられないもの

教育長職務代理者 小坂綾子

「ひとは、ひとにしか育てられない」ということを久しぶりに思い出しました。それは、学校訪問の中で、蒲田集落天神講の詳しい活動内容を知った時のことです。この行事は、就学直前の児童から、小学生、中学生が講員となって子供だけで行うそうです。年長者が、年少者の面倒をよく見て、下の者は上の者を敬いながら、しきたりやマナーを含め、異年齢同士の人との関わりでしか学べない多くの心の機微を受け継ぎ、地区の連帯感を脈々と深め続けています。『継続は力なり』ということばも思い起されました。これは、地域で子供を育て、育てられた子供が、また次の世代の子供を育てている伝統の行事です。

生成AIが教育現場で活用され始め、少子化のため、家庭や地域で大勢の人と関わる場が失われつつある現在、この行事のような人との関わりの中で、人が人を育てる場合は、学校以外ではなくなるのではないのでしょうか？

天神講の行事は、自分が育まれた経験を基に行事を司るのです。9年間、先輩を肌で感じ見聞きした力を、10年目に自分達が実践する場を与えられています。所属感を醸成し、自立心や社会性をも育てるしくみが仕組まれ、体験により、人から人へと伝えられているのです。この仕組みを考え、大人への登竜門として引き継いだ先人は偉大だと思いました。

学校も、これからは、人を人として成長させることに主眼をおく教育の不易の部分の緻密な計画が必要になってくると思います。最上級生がリーダーとして、主体的に司る行事等の中で、脈々と校風が人から人へと引き継がれていきます。千差万別の下級生は、十人十色の上級生と共に活動しながら、関わりで生まれた負の部分でさえも受け継ぎます。人にしか育てられないよき伝統を創るためには見守る大人の役割が重要です。子供が主役になり、人として成長できる場づくりと「不易の部分の育む」という高い志が求められます。

来年は、新しい学校が開校します。一期生の子供達が、新しい校風を創り上げて、人にしか育てられない価値あるものを百年先までリレーできる初めの一步になることを願います。

学校訪問を終えて

教育委員 佐藤道昭

毎年、この時期の学校訪問に際しまして、各学校におかれましては、行事多忙の中、訪問準備を行っていただきまして御礼申し上げます。

今回も、子供達の元気な姿と先生達の笑顔で明るい声かけを各所で拝見できたこと、委員会全員が、安心して訪問を終えることが出来ました。

特に、昨年度に見受けられた問題点が改善されたり、不登校等の問題が良好化したりと、先生方の努力が結果として現れていることと数多く報告を受け、誠に喜ばしく感じると共に、深く感謝申し上げます。

学校訪問や参観時の授業は、日常とは少し違うものとして、生徒も教師もより張り切っているのかもしれませんが、双方ともにあの表情で授業を行えることは、大変素晴らしいことだと思います。

教師側も、授業進行のフォーマットが確立されており、生徒側もそのスタイルに慣れて学習の進め方が楽になり、時折、そのスタイルに変化を付けることで、また違った興味をもって授業に臨んでいることと思います。そのような生徒達の順応を見られる事も、教える側にとって楽しみの一つであろうと考えます。

育むことの喜びと、学ぶことの楽しさを、互いに笑顔で向き合いながら、学び舎を創っていただくことを願っております。

さて、以降は私の個人的体験からの話で申し訳ありません。私がパソコンを始めて三十年以上になりますが、ネットで調べ物をしたりというのはこの二十年程度かと思っています。今ではPCやスマホで何でも知りたいことが得られますが…割と記憶に残りません！私が高齢な為かもしれませんが、若い頃に体験したことや書き写したことは比較的記憶に残っているものです。現代の若い方々はどのようなのでしょうか？

ICTはこれから必須のガジェットですが、それが一切使えなくなった時を想定すると、至極、恐怖でもあります。

生きる力を育むためにも、デジタルとアナログ双方バランスのとれた教育が良いかなと思うこの頃です。

大 家 好 ！

教育委員 佐 藤 美 帆

教育委員になって3回目の夏、「そうだ、教職員研修会で中国語と英語であいさつをしてみよう!」と思い立ちました。日頃、子どもたちや教職員の皆さまに「チャレンジ」と言っている私自身も、チャレンジしたいと思ったからです。

しかし、私が大学で中国語・中国文学を専攻し、夏休みになると中国に短期留学したり海外旅行に出掛けたりしていたのは、今から20年も前のことです。公の場で話すには、我ながらとても怪しい発音でした。そこで、以前、仕事の関係でお世話になった県立大の中国人留学生の方に発音をみていただくことにしました。短い挨拶の文章の冒頭4行と最後1行、たった1時間の発音練習でしたが、私にとって本当に懐かしい、楽しい学びの時間でした。今回の小さなチャレンジで、改めて自分の好きなこと・学びたいことをみつめることができました。皆さんの好きなことは何ですか？

私は、歴史(特に偉人伝や神話)・漢文・旅行・鉄道(ローカル線や廃線)・スポーツ観戦(サッカー・バスケット)・ファッション・マンガ・季節の美味しい食べ物が好きです。また、それらについてディスカッションすることも大好きです。歴史や漢文が好きなことは、大学で高校の地歴の教員免許を取得することにつながりました。スポーツ観戦や季節の美味しい食べ物が好きなことは、子育てに大変役立っています。子どもの部活のサポートや毎日のご飯支度をするときも、楽しみながら心を掛けています。旅行・鉄道・ファッション・マンガが好きなことは、現在お店を運営しながらSNSでコンテンツツーリズムをご提案することにつながっていると思います。さらに、これらのことについてディスカッションをする場としてのリアルなアウトプットコミュニティとして、歴史研究会に参加しています。私にとっては、教育委員会もまた、リアルなアウトプットコミュニティです。

どこに生きて何の仕事をするかも重要ですが、どこにいても、何をしていても、自分の個性やキャラクターを活かして自分らしく働くこと、社会に貢献していくことが、私にとってのwell-beingな働き方であり、生き方です。このwell-beingというワードは、今春の学校訪問で私の中に定着したワードです。

私が想い描く働き方改革とは「一定の時間から一定の時間まで働かなければならないこと」ではなく、ありのままの自分が「好きなことを楽しみながら過ごしていく時間割のようなもの」です。もちろん、放課後は自由です。全く別のことをしてもいいし、しなくてもいい。好きなことを好きなだけやってもいい。例えばそれが時間割の中にあることだとしても、放課後の自分がもしまだやりたいと感じるなら、やってもいいのです。放課後は自由に学ぶ時間なのですから。

I hope you have an amazing life!

Thank you.

『English Day』への期待

教育委員 嵯 峨 泰 治

「イングリッシュデイ (English Day)」は、英語の学習や使用を促進するために設けられる特別な日で、学校や企業、地域コミュニティなどで実施されることがあります。その歴史は、1978年に帯広の英語学校で行われた「オール・イングリッシュ・デイ」が最初とされています。国際的には2010年に国連で、英語を含む6つの公用語(英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、アラビア語)それぞれに「言語の日」を制定し、英語の日(English Language Day)は4月23日で、これはシェイクスピアの誕生日と命日とされる日です。

2010年代以降、日本の学校教育でも「English Day」が導入され、英語環境の整備が進み、英語への親しみと自信の向上、実践的な英語力の育成、異文化理解の促進、学習意欲の向上が期待されます。

一方で、問題点、課題も挙げられます。
英語力の差による不公平感

英語が得意な児童と苦手な児童の間で、活動への参加意欲に差が出る。英語が苦手な児童が「恥ずかしい」「わからない」と感じてしまうことも。

ALTや指導者の不足

ALTの役割も大きく、負担の増大が懸念される。教員の英語力や指導スキルにばらつきがある場合、活動の質に影響することもある。

活動の形骸化

「英語を使う日」として形式的に行われるだけで、実質的な学習効果が薄いケースも。英語を使う目的や意味が児童に伝わっていないと、ただのイベントになってしまう。

心理的負担

英語で話すことに強い不安を感じる児童もいる。無理に英語を使わせることで、逆に英語嫌いになる可能性もある。

これらの問題点、課題を解決するために、ふりかえりシートの活用、成果の可視化、継続的な改善サイクルによる事後の振り返りと評価も大切と考えられます。

導入までの教職員の皆様のご苦勞のほどは、私の想像を遥かに超えるものであったと、深く拝察いたしております。少子高齢化、国際化社会の今こそ必要な教育だと思います。

今後の継続的な取組による児童生徒の成長と将来の国際的な活躍を楽しみにしています。